

夏恋

No. 132

令和3年12月10日発行

ひとつひとつの

創作活動が大集結!

お祭り会場が出来上がりました



友愛の里 から

トリック オア
トリート!!

十月三十一日に施設行事では恒例となりました、「ハロウィン」の行事を行いました。最近では新型コロナウイルスの影響で、色々な行事を縮小しながら実施してきましたが、今回は、新型コロナウイルスも胆振管内などは、落ち着いてきている為、久しぶりに行事らしく、縮小しない形で実施ができました。ハロウィンと言えば、やはり仮装やコスプレ、派手なメイクである為、今回は、今までの衣装以外にも新しく沢山のコスプレ衣装を購入しました。

午前中は、男子棟・女子棟に分かれて、それぞれ好きな衣装を選んで着てもらったり、メイクを職員にしてもらって写真撮影を行いました。今年は、新しく購入したピエロやドラゴンボール、スパイダーマンの衣装、最近流行っている鬼滅の刃の衣装など個性豊かな衣装に身を包む利用者、ゾンビ系や小悪魔系などのメイクをした利用者がい



るなど、普段着ることがない衣装やメイクをすることでハロウィンパーティーらしく、自然と笑顔になつているのが印象的でした。その後、食堂に全員が集まり、仮装やコスプレをした状態で昼食を食べました。メニューはゆるふわオムライスやカボチャポタージュなどハロウィン仕様で、目でも楽しむことが出来、みなさん「美味しい」と言つて食べていました。

昼食後はレクとして「誰が仮装しているでしょう?クイズ」というレクを行いました。内容としては、今回利用者だけでなく、職員も仮装して利用者を楽しんでもらおうと、行事の一ヶ月前から職員が顔を

隠した状態で仮装した写真を撮つて動画を作成しました。また、動画の背景や音楽などもその衣装に合った背景や音楽にして、その動画を当日に流し、利用者に向けてもらおうクイズを行いました。職員が仮装しているということで利用者にも分かりやすく、クイズ動画を見ながら「この仮装をしている人は、職員だと思ふ」と言ったり、「間違つ

た、難しい」など大盛り上がりでした。

ハロウィンは毎年恒例となりつつあり、利用者や職員も楽しみにしている行事で、職員が行うメ

イクなども年々上達してきている為、今後も新しいレクなどを考え、内容を工夫しながら、来年も継続していけたらと考えています。

(支援員 菊地 将平)

弾ける
ホームパーティー時間

ミニ行事として「ポップコーン」を行いました。今年度の夏季休暇の帰省は、新型コロナウイルス感染防止の為に中止となつており、少しでも楽しめる時間を設けたいという事で、男性は八月十三日、女性は十五日に分けて実施しています。

ポップコーンは、機械を使用して目の前で作られていますが、香ばしい香りが室内に漂



の雰囲気を実似て食べています。中にはおかわりをされる方もいて、好評のミニ行事となりました。

(支援員 齊藤 友紀)



い、みんなでおいしそうだね「良い匂い」などと言いながら、完成を待っていました。出来立てほやほやのポップコーンを受け取り、DVD観賞を行うって、映画館

敷地内で近場で 自然と触れ合おう

緊急事態宣言発令の影響で、今年度も帰省や外出の制限があり、毎年恒例の思い出が少なかったのではないかと感じます。そんな中でも毎日同じ生活の繰り返しだけでは窮屈！施設の敷地内でも自然と触れ合う機会をと思い、畑の手入れやぶどう狩り、普段は作業グループが担当している椎茸の収穫なども休日の中で取り入れてみました。雨上がりには敷地内に降り立つて、土から食料を調達しているカモメを見るたび、「今日は〇羽だった！」「親カモがいた！」などとカモメ観察をしている方も多かったです。緊急事態宣言解除後は町内の神社を散策したり、パワースポット



目掛けて龍山道を通つてのプチ山登り、洞爺湖ぐるつと彫刻公園巡り、秋の風物詩であるインディアン水車の鮭遡上を見に行つたり…。催しごとに参加出来ないながらも四季



みました。昨年初登場したフィナーレを飾るナイアガラ流星。今年は量を二倍に増やし、大迫力からの静かな夏の終わりを彩りました。男女ともにテイルームの窓から中庭を楽しそうに眺めている笑顔が印象的でした。来年こそ自然はもちろん、人と人の触れ合

いが多く持っている思い出が増えるよう願っています。

(支援員 渡辺 千明)



さぽーとステーションゆめあつた

〜ミニ夏祭り〜

八月二十八日に「ミニ夏祭り」の行事を実施しています。「高齢者班」と「生産活動班」の二班合同で、当日は十九名の利用者が参加されています。施設内に会場を作り、ポップコーン、綿あめ、射的のコーナーをお祭りにあるような雰囲気です。設置致しました。日頃より取り組んでいる塗り絵の用紙を再利用して三角に折ってもらい、ガーランドを作り、天井から吊るして会場全体を飾り付けています。看板やポップ類は、一文字ずつ張り絵などで作成しています。折り紙を小さくちぎる方と、貼る方に分けて、利用者全員が手を加えた手作りのお祭り会場が出来上がっています。



目的に、当日まで行事に関して利用者には伏せていたので、飾り作り準備期間の途中で「これは何になるの?」「何の文字になるのかな?」等と質問が聞かれ

て支援員達もドキドキしていました。いよいよ「ミニ夏祭り」が開始され、ハッピを着てもらい露店の交換チケットを受け取って会場に入ると「すごい」「これ、作ったやつだね」等の声が笑みと共に聞かれていました。綿あめは、機械を使用して自分たちで作ります。パンパーンと音を立てながら飛び交うポップコーンを見入ると、温かいうちに食べています。射的は狙いを定めています。なかなか倒せないでいるとオマケをしてみたいながら欲しい景品を手にとっています。ひと段落すると、二度目のサプライズでスイカを受け取り、「おいしい」と言いながら食べていました。行事の締めは恒例の万歳三唱で終え、後片付けには積極的にお手伝いしてくれる利用者が出て大変助かりました。小さな行事ではありましたが、夏の終わりにたくさん利用者に喜んで頂くことが出来ました。コロナ禍で大変な日々を過ごす事もあります。利用者にとつて楽しい日が、一日でも多く増えるように支援していきたいと思えます。

(支援員 齊藤 友紀)

〜野外焼肉〜

九月二十七日に屋外での行事、「野外焼肉」を実施しました。実施をするにあたり、コロナウイルス感染の怖さはありませんでしたが、ワクチンの予防接種を終えている事や屋外という事もあり、密になることもなく、換気も充分に取れ、物品の消毒、調理時にはマスクはもちろん、手袋の着用などを徹底し、ソーシャルディスタンスを取っての実施となりました。

当日、風は少し強かったですが、空は青空、気温も高く、絶好の焼肉日和となりました。「野外焼肉」という事もあり、業務用の焼き台など大きな物品も多い為、一週間前から入念な準備を行い、当日の朝にサプライズとして、利用者へ焼肉をするという報告をしました。報告をすると、「やったー!」「外の焼肉は久しぶりだね」と一気に喜びが爆発し、職員にハイタッチをする利用者も数名おり、皆さんの笑顔が見られていました。

お昼のサイレンが鳴り、待ちに待った焼肉です。さて、今回のメニューは、豚スタミナ焼き、サイコロステーキ、つくね、焼き鳥、おにぎり、デザートとしてカップアイスです。

インナップです。お肉は町内の松崎精肉店、アイスはレイクヒルファームから購入し、提供しました。利用者の乾杯の音頭から始まり、会食スタートです。笑顔でお肉、串物を頬張る利用者の顔が印象的で、おかわりをし、食べ終わると、「お腹一杯」と椅子に背中をもたれ、お腹をポンポンと叩く利用者もあり、利用者同士で笑いあう様子も印象的でした。最後に、デザートとして、レイクヒルファームのアイスクリームがあることを伝えると、再度喜ばれており、あつという間に食べられていました。焼肉終了後、利用者の皆さんからは、「来年もやりたいね」「次は何の行事？」等、やはり行事を楽しみにしている言葉が多く聞かれており、利用者の余暇的活動や交流の場として、大切な時間だと感じました。また職員一同、行事を実施する度、利用者が楽しみにしている事、利用者の笑顔を見ると、行事の内容にも力が入り、「やりがい」がある仕事だと感じました。今後は冬も近づき、屋内での行事が中心となってきます。このコロナ禍で暗い中、少しでも利用者の笑顔を多



く作れるように模索しながら、次回の行事も実施していきたいと思えます。

(支援員 佐藤 祥至)

ハロウィンパーティー

十月三十日に「ハロウィンパーティー」を行いました。昼食はサーモン散らし寿司、南瓜の茶碗蒸し、お吸い物、いつもの昼食とはちよつと違う行事メニューでした。サーモン散らし寿司の盛り付けは南瓜のようになっており、最後の仕上げとして自分たちで南瓜に顔を作りました。目や口の形に切られた海苔(刻み食の方はチーズ)が用意されており、各々思いのままにサーモンの上に乗せてジャックオランタンの完成です。怖い表情から笑っている表情まで思い思いのジャックオランタンがいました。いつも以上に豪華で美味しい昼食にみんな大喜びでした。午後からはレ

クリエーションで目玉



ボールリレーを行いました。沢山用意された目玉を紙コップに入れて受け渡しゴールのバケツに何個入れるか勝負するゲームです。こ



ぼさないようにしていても小さな紙コップなので落ちてしまうこともありましたが、当たりのボールもあり、

得点は倍に!!みんなで何点取れたかを数えてゲームは盛り上がりました。また、ピエロが来てくれてバルーンアートを披露してくれましたが、華麗な手さばきにみなさん目はくぎ付けです。最後には作ったバルーンアートを全員にくれました。その後は月に二回あるお楽しみジュースの日として、自動販売機で好きな飲み物を選び、目玉ボールリレーの景品のお菓子と一緒に飲食しました。「昼食おいしかったね」「ゲーム楽しかったね」「あのピエロは誰?」「ジュースとお菓子おいしいね」など会話は止まらず、楽しいひと時を過ごしました。

(支援員

大塚 幸香)



デイセンターあすなるから

〈野外焼肉〉

八月二十一日に緑化班作業敷地内で野外焼肉を行いました。緑化班、製パン班合同の恒例行事なので皆さんとても楽しみにしていました。当日は天候にも恵まれ、製パンのメンバーはあすなるから徒歩で向かっています。会場準備は緑化メンバーも手伝ってくれており、食材のカットやテーブル・椅子等の設置をしています。テーブルの配置も密にならない様に広く、十分な間隔を取っています。

食事のメニューは、ジンギスカンをメインに、焼きそば、ソーセージとおにぎりが付き、ボリューム感たっぷりの内容となっています。皆さん年々小食になってきていますので、量よりも種類を増やすなど工夫をしています。食事の後にはアイスクリームと大きなスイカも配られ、皆さん大喜びでした。やはりデザートは別腹ということで甘いものを食べて、さらに笑顔が増えて皆さん満足していました。お腹が満たされるとビンゴ大会のスタートです。皆さん真剣にカード

を見て、同じ数字がないか探すことに夢中になっていました。一列揃うと控えめに「ビンゴ」と言い、景品を受け取っていました。久しぶりに皆さんでゆつたりと過ごせたひと時でした。まだまだコロナ禍で自由の利かないこともありすが、今出来る範囲で皆さんに楽しんでもらえるような行事が実施できたらと思っています。

〈あるそ〜れ〉

焼き立てパンの店「あるそ〜れ」では、毎月第二土曜、日曜日にパンフェアを開催しています。フェアでは食パンを二割引き、また限定商品もお求めやすい価格でお買い求め頂けます。毎回好評で食パンは早い時間に売り切れてしまうこともありますが、お電話を頂けると取り置きもできます。都合により日にちが変更になることもありますので、チラシや店内告知でご確認頂くか、店舗までお問い合わせ下さい。

(支援員 下総 美範)



令和三年度、二回目の行事として「食事会」を十月三十日に行いました。コロナ禍で外出行事が出来ない状況の為、いちばんぼしの室内、屋外を利用してお祭りをイメージした内容で実施しました。当日は開設日であり、午前中は普段と変わらない作業を請け負いつつ、みなさん行事に向けて開始時から張り切っていました。行事の準備も利用者さんが手伝ってくださり、スピード感のある午前でした。



食事のメニューはマクドナルドのハンバーガー・サラダ・ポテト、そのほかにたこ焼き

も用意しました。ハンバーガーは事前に写真を載せたメニュー表を作り、数種類の中から利用者さんが好みの物を選んでいただきます。たこ焼きは、所長が業務用のたこ焼き機で焼



き上げてくれました。それぞれのメニューを皆さん「美味しいね」と笑顔を浮かべながら飲食していたのが印象的でした。そのほかに「カラフル綿あめ」を提供する予定で

したが、試し作りの際、突然の機械停止！まさかの故障により中止となってしまうました。今回は皆さんに提供することが出来ませんでした。試作の段階で非常にかわいらしい綿あめでしたので、何かの機会に再挑戦したいと思います。

食後のレクリエーションは、射的と動物ビンゴ抽選会を行いました。射的では用意された景品を狙い撃ちする内容でしたが、当てることに苦戦している方、一発で当てる方など様々でしたが、全員が参加し、楽しんでいました。動物ビンゴ抽選会は、作業で作った動物のスタンプをシールにし、事前に何

が出るかを予想してもらい、好きな動物のスタンプシールを貼ってカードを作成するとビンゴといった内容です。自分で選んだスタンプを見せてくれる方もおり、完成途中

でも楽しむことが出来たようです。ビンゴの抽選を待っている時もワクワク、ドキドキした様子、動物の絵柄が自分のものと合うと歓声が上がりました。

利用者の皆さんは行事が大好きなので、早くコロナ禍が落ち着き、我慢している外出行事も実施できる日が来ること、職員一同願っています。

(支援員 上田 祐子)



く永きに亘り、 この地で生きるく

洞爺湖町高砂町のグループホームに住む菊地進さんに、十一月三日、当町在住五十年以上に亘り、町の発展に貢献したとして、感謝状が贈られました。

菊地進さんは、昭和二十五年十二月十日、虻田町で生まれました。虻田中学校を卒業した後は、建設会社で働き、昭和六十年に、清水友愛の里に入所いたしました。平成九年に、グループホームでの地域生活を始め、平成十六年六月、ホッコー建設運輸株に就職し、五年六か月間、一般廃棄物収集の仕事に従事してまいりました。平成二十一年十二月、定年退職し、その後は、緑化事業班にて、町の花壇整備や花苗育苗作業、草刈り等の作業をしています。自分から気持ち伝えてくることはあまりなく、他人から話し掛けられると、俯いてしまうような繊細な菊地さんですが、真面目な性格で、自分の仕事に対する姿勢は、常に一生懸命で、現

在七十歳、十二月で七十一歳になる今でも、仕事に手を抜くことはありません。グループホームでは、世話人さんへの気遣いは感心するほどで、世話人さんが次に使おうとしている物を、さりげなく持つてきてくれる優しさには、いつも見習わなければいけないと感じます。

表彰式当日は、やや緊張気味のようにありましたが、名前を呼ばれると前に出て、真屋町長より表彰状を渡されると、深々とお辞儀をして受け取っており、堂々としたものでした。表彰式が終わった後、女性の方から、子供の頃、菊地さんに親切にしてもらったと声を掛けられ、「覚えてるよ」と言いながらも、照れくさそうにし、それ以上、何も言えなくなってしまうました。それでも、その女性と別れた後、「知ってる、覚えてる」と繰り返しており、子供の頃を懐かしんでいる様子が垣間見られました。

町から表彰を受けたのは、あぶた福祉会では、菊地さんが初めてで、とても名誉なことです。菊地さんもその事を感じており、帰ってから、表彰状を部屋に飾

ると、とても嬉しそうにしており、世話人さんにも、早速見せていました。その日の夜は、生寿司やローストビーフなど、テーブルにごちそうが並び、同居者皆でお祝いをしました。

本当におめでとうございます。心から、菊地さんの益々の活躍を期待しています。

(支援主任 菅原 真樹子)



二〇二二年度ヤマト福祉財団・障がい者給料増額支援助成事業の完了について

この度、公益財団法人ヤマト福祉財団様による障がい者給料増額支援助成事業が完了しましたのでお知らせいたします。

デイセンターあすなろで行っている製パン事業の中で、パン焼成前の最終発酵として発酵機（ホイロ）を使用していますが、当日早朝からの仕込み生地の対応となり、早朝勤務が難しい利用者の方々の作業の種類が限られていました。そこで、新たに生地冷凍発酵機（全自動ドウコンデイシヨナー）を導入することで、利用者の方々の作業の幅が広がるとともに、売り上げの向上や給料の増額に繋がるものと考えております。

公益財団法人ヤマト福祉財団様に謹んで感謝の意を表します。



事業名… 生地冷凍発酵機

（全自動ドウコンデイシヨナー）の購入

整備内容… 生地冷凍発酵機 1台

（愛工舎(株)製 A・D P・3222A）

設置場所… デイセンターあすなろ

製パン作業室

総事業費… 1,870千円

助成金額… 1,700千円

事業完了日… 令和三年九月三十日

新職員紹介

室本 有沙

（さぽーとステーションゆうあい支援員）

令和三年九月一日付

九月一日よりさぽーとステーションゆうあいの支援員として働かせて頂いております。これまでは老人福祉事業所や病院での勤務を主に行ってまいりました。障害福祉事業所で従事したことはなく、初めての経験となりますので、分からないことも多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いましたが、これまでの経験を活かし沢山の事を学んでいければと考えております。皆さんと楽しみながら従事して参りたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

お悔やみ申し上げます

令和三年十月二十六日

清水友愛の里で三十二年間生活され、令和三年三月に退所された青木みよ子さんがお亡くなりになりました。

ご冥福をお祈りいたします。

（享年五十五歳）

令和三年十一月十六日

清水友愛の里で三十八年間生活されていた神野明寛さんが急逝されました。

ご冥福をお祈りいたします。

（享年七十一歳）

御寄付・御寄贈品

令和三年七月から十月まで

七月度

◆寄付物品◆

株式会社ゴウダ 様 洞爺湖町
菊地眼科クリニック 様 伊達市

八月度

◆寄付物品◆

加藤建設株式会社 様 洞爺湖町
西谷 康 夫 様 洞爺湖町
和田 孝 道 様 洞爺湖町
赤川 達 磨 様 洞爺湖町
大崎 一 廣 様 寿都町
日野 恵 子 様 札幌市
中森 静 子 様 室蘭市

十月度

◆寄付金◆

牛坂 幸雄 様 伊達市

善意のご寄付

ありがとうございますございました

シュトーレンの販売が始まります

今年もシュトーレンの製造が始まりました。今年は四百個限定での販売となりますので、無くなり次第終了となります。あすなるのシュトーレンは、地場産のルバーブを自家製ドライフルーツに入れて入れることが特徴となっており、他にはない一品となっています。その他にも、レーズンやオレンジピール・レモンピール・アーモンドなどのナッツ類も入っており、小さなお子様にも食べやすい、しつとりとなめらかな口当たりとなっています。賞味期限は製造から四十五日間と長く、日を置くごとに味わい深くなり、一切れ一切れお楽しみいただけます。

大切な方への贈り物にも最適です。地方発送も行っており、三個以上お買い上げいただくと送料が無料になります。

一個1,500円となっています。焼き立てパンの店『あるそくれ』での店頭販売、移動販売車での販売となります。町内、伊達市内(一部を除く)は配達もしておりますので、お気軽にお問い合わせください。



焼きたてパンの店 あるそくれ

営業時間

午前10時～午後4時

TEL 74・3988

編集後記

秋も深まり、冬支度に追われる今日この頃です。今年は夏の局所的な暑さ、更に雨量も少なく、自然の恵みを欲している方には辛い年だったのではないのでしょうか。私自身も通勤で横目になっている河川の水量が日に日に減り、渇水している様子を見ていると心穏やかではいられませんでした。追い打ちをかけるようにニュースや新聞で取り上げられている野生動物の動向や秋鮭の不漁など、心配事が増えていくばかりです。そんな中でも施設周辺、特に湖畔を彩る紅葉は壮大なもので、一転してよい気分になさせてくれます。

利用者の皆さんに食欲の秋といえは思いつくものは何でしょうか？と聞いてみると「焼きたてのパン」「じゃがいも」「さつまいもかな」と、イモにまつわる連想が多く聞かれ、中には季節にちなんだ食物の本を持ってくる方も居ました。感染防止の為、外食も見合わせている状況ではありますが、テイクアウトした食事を楽しむ会を数名ずつに分けて実施した月間もありました。

師走の月に突入し、一年を終えることになりましたが、皆さんの意見を取り入れながらやり残しのない一年に。そして新しい一年の幕開けになるよう、今後も微力ながらもサポートさせていただきます。思っております。

(W.C)